

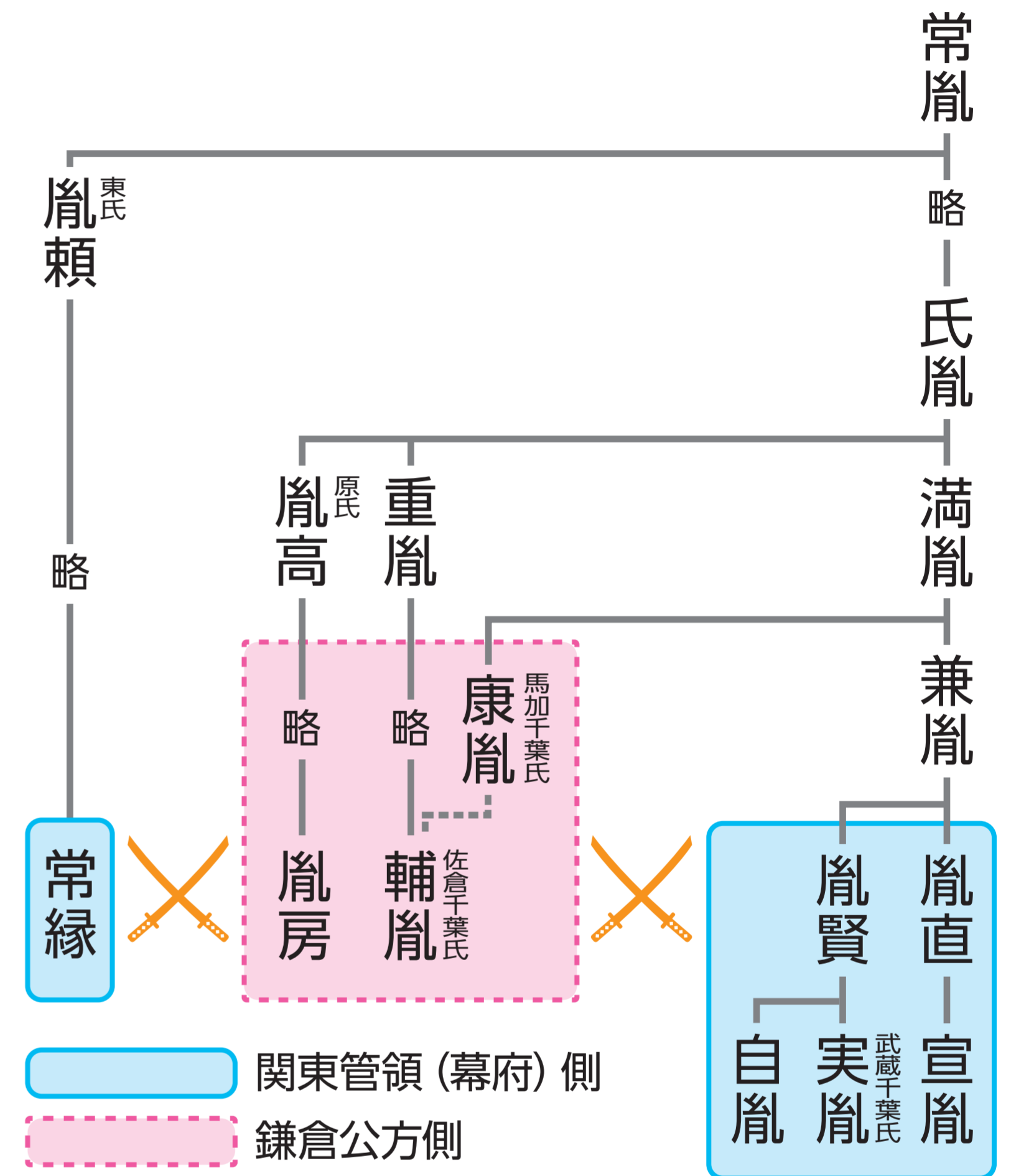
千葉宗家を滅ぼした千葉(馬加)康胤が開いた寺

智光院は真言宗豊山派の寺院で、康正2年(1456)に千葉(馬加)康胤が開いたと伝えられています。康胤は千葉満胤の二男で、馬加(現在の花見川区幕張)を本拠としていました。鎌倉公方足利成氏と幕府方の関東管領上杉憲忠の対立から、関東で享徳の乱(1455~1483)が勃発すると、千葉胤直ら千葉宗家が関東管領側についていたのに対し、康胤は庶家の原胤房らと鎌倉公方側につきました。康正元年(1455)、康胤らは千葉氏の館を攻め落とし宗家は滅亡、翌年康胤も、幕府の命を受け美濃国

郡上郡から下向した千葉一族の東常縁に討たれました。

館の陥落後に、康胤が創建したといわれるのが智光院です。この時代、滅ぼされた者の霊が災いを引き起こすと信じられており、鎮魂のため相手の館跡を寺とすることがありました。このため、この場所は千葉宗家にゆかりがある可能性があります。真相は不明です。

康胤は千葉氏を継承しましたが、後継ぎがいなかったため、当主の地位は千葉一族の輔胤が引き継ぎ、後に本拠を本佐倉(現在の酒々井町・佐倉市)に移すこととなります。



人物相関図



本尊 木造不動明王立像

像の胎内に、貞享5年(1688)に千葉氏の氏寺といわれた妙見寺(現在の千葉神社)の僧栄慶が修理したと書かれており、智光院が江戸時代に妙見寺と深い関係を持っていたことがわかります。